

「未来につなぐ下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)

※「経営戦略事業(小施策)」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例

A・・・大変良い (目標を大きく超えて達成できた) D・・・悪い (目標を達成できなかった)  
 B・・・良い (目標を達成した) -・・・該当なし (当初から事業の予定がなかった)  
 C・・・やや悪い (目標を一部達成できなかった)

基本方針	目的	経営戦略事業(小施策)	担当課	目標	2022年度末の目標	2022年度の事業内容	2022年度達成状況	2022年度実績	2022年度評価	2022年度評価理由	備考
1 環境に配慮した施設整備・より良い環境づくりの推進	(1) 住環境の改善	① 污水管整備事業	下水道整備課	水洗化率 100% (2026年度末)	①整備延長 L=2.5km 水洗化率 99.47% ②合併処理浄化槽への 切替え基数 20基	①市街化区域、市街化調整区域及び道路関連事業等に伴う污水管整備工事実施 ・污水枝線工事 L=2.5km ②事業内容 ・配管費補助の継続 ・維持管理費補助の案内に、単独処理浄化槽への補助金廃止予定を明記し、合併処理浄化槽への転換を促進 ・啓発活動実施	①計画した污水幹線及び枝線整備延長は、道路整備関連事業による用地未取得等により工事に着手できないなど、計画延長よりも実施延長が減っている。 整備延長 L=1.7km ②切り替え済基数 0基 ・配管費補助の継続 ・維持管理費補助の案内に、単独処理浄化槽への補助金廃止予定を明記し、合併処理浄化槽への転換を促進した。 ・設置補助案内送付 計77件 ・啓発活動として、下水道事業計画区域外である地域への設置補助案内のポスティングを実施 計102件	①整備延長 L=1.7km 水洗化率 99.45% ②合併処理浄化槽への切 替え基数 0基	C	①目標の水洗化率を達成できなかったため。 ②2022年度から公共下水道事業計画区域が拡がり、補助対象となる浄化槽基数が減少したことから2022年度の切り替え基数はなかった。個別相談まで進めた案件が1基あったが、申請までには至らなかったため。	
		② 未接続家屋への污水管接続の普及啓発指導	下水道整備課	污水管接続件数 30件 (供用開始から3年以上経過している家屋)	・年間を通じて市内全域にある未接続家屋に普及活動を行う。 ・供用開始して間もない家屋に普及活動を行う。	・市内全域にある未接続家屋の普及活動件数 266件 ・供用開始して間もない未接続家屋の普及活動件数 9件	污水管接続件数 36件 (供用開始から3年以上経過している家屋)	B	目標の污水管接続件数を達成したため。		
		③ グリーストラップの適正な維持管理方法の周知	下水道管理課	管清掃延長(緊急) 0.52km削減	管清掃延長 4.00km以下	油脂の流出による污水管の閉塞を防ぐために飲食店などを訪問し、グリーストラップの点検、清掃などの適正な維持管理方法を周知していき、油脂を起因とした詰まりによる管清掃延長を減らす。 2022年度は管清掃延長が4.00km以下となるように周知・啓発を行う。	污水管の油脂点検調査を実施し、120箇所中6箇所に油脂の付着が見られたため、その周辺34店の飲食店を訪問して、グリーストラップの適正な維持管理方法を周知した。 周知後の点検調査では管清掃が必要な箇所が120箇所中2箇所に減ったため改善が見られた。 管清掃延長は3.26kmで目標値以内に収まった。	管清掃延長 3.26km	B	グリーストラップの適正な維持管理方法の周知により、目標値に対して管清掃延長を削減できたため。	グリーストラップとは、油脂等を下水道へ流入させないための装置。
	(2) 河川の水質向上への貢献	① 下水処理水の水質向上		水再生センター	高効率散気装置 導入率33%	現在、高度処理化されていない、又は高効率の散気装置が導入されていない水処理施設が鶴見川クリーンセンターには7池、成瀬クリーンセンターには6池ある。 2022年度はそのうちの1池(鶴見川クリーンセンター分)を高効率散気装置に交換する。	2023年1月に鶴見川クリーンセンターの1池を従来の散気装置から高効率散気装置に交換した。 これにより、高効率散気装置導入率33%を達成した。	高効率散気装置 導入率33%	B	鶴見川クリーンセンターの1池を従来の散気装置から高効率散気装置に交換し、これにより高効率散気装置導入率33%を達成したため。	
				下水道管理課	水路台帳の作成	定期的な清掃や草刈を行う場所や計画的に修繕する箇所の選定に活用するため、2016年度から2021年度に行った水路の現況調査成果を基に、市内全域の水路約197kmについて位置や構造など基本的な情報を集約・集計した水路台帳を作成する。	位置や構造などの水路の基本的な情報を集約・集計した水路台帳の作成を予定どおり完了した。	水路台帳作成完了	B	予定通り水路台帳の作成を完了し、目標を達成したため。	水路等延長合計について、当初図上による集計約197kmであったが、現況調査及び台帳作成に伴う実測延長集計の結果、約188kmとなった。
				下水道整備課	浄化槽維持管理費補助制度対象者への適切な維持管理の啓発・指導	・浄化槽維持管理費補助制度の利用促進 ・三大義務(保守点検・清掃・法定検査)の未実施者に対する啓発活動実施	・浄化槽維持管理費補助金対象者に申請書等送付 計1,466件 ・維持管理補助申請促進通知 487件(法定検査実施済みの管理者宛) ・浄化槽維持管理費補助実施 692件 ・法定検査受検促進通知 798件 ・法定検査受検件数 813件(7条19件 11条794件) ・啓発活動として、下水道事業計画区域外において、2019年以降三大義務(保守点検・清掃・法定検査)のいずれも未実施の者を対象として抽出し、啓発文書を送付計70件	浄化槽維持管理費補助制度対象者の制度利用率 47.2% (692/1466)	B	補助制度対象者に対し、適切な啓発指導を行った結果、2021年度の浄化槽維持管理費補助制度利用率46.4%(710/1531)から利用率が上昇したため。	

「未来につなぐ下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)

※「経営戦略事業(小施策)」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例

A・・・大変良い (目標を大きく超えて達成できた) D・・・悪い (目標を達成できなかった)  
 B・・・良い (目標を達成した) -・・・該当なし (当初から事業の予定がなかった)  
 C・・・やや悪い (目標を一部達成できなかった)

基本方針	目的	経営戦略事業(小施策)	担当課	目標	2022年度末の目標	2022年度の事業内容	2022年度達成状況	2022年度実績	2022年度評価	2022年度評価理由	備考
	(3) 地球温暖化対策と資源の循環利用	① 温室効果ガスの削減	水再生センター	第3計画期間(2024年度末)5カ年平均25%減	基準排出量より2020~2024年平均で、2.5%削減	効率的な機器の運転等により、エネルギー使用を抑制し、温室効果ガス排出量の削減を図る。 成瀬クリーンセンターでは、安定的な高温(850℃)での污泥焼却炉運転により、削減効果の高い温室効果ガス(N2Oなど)を定期的に削減する。 鶴見川クリーンセンターでは、町田市ハイオエネルギーセンターで発電したCO2排出量が少ない電力を購入することで相対的にCO2を削減する。	エネルギー起源CO2の排出量としては、成瀬クリーンセンターでは18.6%、鶴見川クリーンセンターでは、省エネに努めて電力使用量を低減することに加え、町田市ハイオエネルギーセンターで発電したCO2低排出の電力を利用することで69.6%削減した。 さらに成瀬クリーンセンターでは高温焼却によるN2O削減量をCO2の削減量に換算することができるため、CO2排出量を42.4%削減できた。 両処理場合計で52.9%の削減を達成した。	基準排出量からの削減率 52.9%	A	効率的な機器の運転等によって、目標削減率25%を大幅に上回って達成することができたため。	高温焼却によりN2Oを削減した場合、「N2O削減量(t)×CO2排出係数÷2」をCO2削減量として算出することができる。
		② エネルギー・資源の有効利用	水再生センター	再資源化率99.5%	再資源化率98.5%	下水処理場から発生する全ての産業廃棄物(污泥焼却灰や沈砂污泥など)について、建設資材などへの再資源化を実施する。	再資源化率は、種類ごとに ・污泥焼却灰発生量804.04 tで100% ・沈砂污泥発生量731.58 tで95.2% ・その他廃棄物発生量33.797 tで100% ・総発生量1,569,417 t中1,534,877 tの再資源化を行い再資源化率は97.8%となり、目標未達成となった。  鶴見川クリーンセンター污泥焼却設備更新工事について、排ガスのエネルギーを活用した「過給式流動燃焼システム」の導入に向け、予定通り実施設計が完了し、工事に着手した。	再資源化率 97.8%	C	年度途中で沈砂污泥を受け入れていた再資源化施設の閉鎖により目標未達成となったため。	目標未達成の原因は、年度途中で成瀬クリーンセンターの沈砂を受け入れていた再資源化施設が閉鎖したことによる。現状、近郊には臭気の問題から受け入れ可能再資源化施設は無い状況であるが、2023年度中に沈砂洗浄装置が更新され、洗浄効果の向上が期待されることから、再資源化率目標達成に向けて、新たな受け入れ可能再資源化施設を引き続き調査する。
2 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築	(1) 浸水対策の推進	① 浸水対策事業	下水道整備課	整備箇所数22箇所	整備箇所数2箇所	・浸水対策として、雨水管整備工事実施 ①本町田東1号雨水幹線その4工事 ②鶴間八丁目雨水枝線その2工事	・計画した雨水管整備工事の内、①については設計内容精査に伴い、立坑築造による既設自立式擁壁への影響検討に時間を要したことから、2022年度中の工事完了せず2023年度に繰越し実施する。 ②については、3回目の入札で3月末に契約し、2023年度に繰越し実施する。  整備箇所数 0箇所	整備箇所数 0箇所	C	工事内容の調整や入札不調により遅れが生じたものの、年度内に工事着手できたため。	
			下水道経営総務課		①境川の早期整備を要望 ②鶴見川の整備状況の確認	・境川について、境川流域総合治水対策協議会に参加し、整備状況を確認するとともに、河川管理者に早期整備を要望する。 ・鶴見川について、鶴見川流域水協議会に参加し、整備状況の確認を行う。	・境川について、境川流域総合治水対策協議会に参加した。また神奈川県藤沢土木事務所、神奈川県厚木土木事務所東部センター及び津久井治水センターを訪問し、整備状況を確認するとともに早期整備を要望した。 ・鶴見川について、鶴見川流域水協議会に14回参加して、「今年度の鶴見川流域水マスタープラン」の推進方針について情報を共有し、鶴見川の整備状況についても確認した。	①境川の整備状況の確認及び早期整備の実施要望 ②鶴見川の整備状況の確認実施	B	予定通り整備状況の確認及び早期整備の実施要望を行い、目標を達成したため。	
			下水道管理課		雨水浸透設備設置促進 10件	個人住宅に対して、雨水浸透設備設置について補助内容を拡充し、補助金を交付し、雨水浸透設備の整備促進を図り、浸水被害の軽減に寄与する。	個人住宅に対して、9件の補助を行った。	補助件数 9件	C	目標件数10件に到達しなかったため。	
			下水道部全課		水のう袋を配布し自助を啓発する	市民センターや市立の小中学校等に水のう袋を支給して雨水流入の防止に努めるように協力依頼を行う。	6月の「浸水対策強化月間」における取り組みとして、市立小中学校62校、図書館9か所、市民センター8か所、市民病院へ水のう袋を支給するとともに屋外流しの点検等を依頼した。	水のう袋の配布(自助啓発)を実施	B	目標通り水のう袋の配布を実施したため。	
			下水道部全課		豪雨前のパトロール 2回	梅雨入り前、台風シーズン前に水路、下水道施設の点検及び清掃を行い、浸水被害の低減を図る。 2022年度は、2回パトロールを行う。	梅雨入り前、台風シーズン前に水路、下水道施設の点検及び清掃を行い、浸水被害の低減を図った。 2022年度は、4回パトロールを行った。	豪雨前のパトロールの実施 4回	B	豪雨前のパトロール年4回を行い、目標を達成したため。	
		下水道部全課	② 下水道事業継続計画(水害編)の運用管理及び訓練の実施	人命を守る犠牲者ゼロ	訓練実施回数2回	・下水道部では下水道BCP(水害編)を適切に運用する。 ・町田市総合水防訓練(図上訓練)に合わせて下水道BCP(水害編)に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図る。 ・下水道BCP(水害編)を必要に応じて修正・更新作業を行う。	・下水道部では下水道BCP(水害編)を適切に運用した。 ・町田市総合水防訓練(図上訓練)に合わせて下水道BCP(水害編)に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図った。 ・訓練実施に伴い下水道BCP(水害編)の見直しについて検証した結果、BCPマニュアルを一部修正した。	訓練実施回数 3回	B	下水道BCP(水害編)に基づく訓練を年3回実施し、目標を達成したため。	



「未来につなぐ下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)

※「経営戦略事業(小施策)」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例

A・・・大変良い (目標を大きく超えて達成できた) D・・・悪い (目標を達成できなかった)  
 B・・・良い (目標を達成した) -・・・該当なし (当初から事業の予定がなかった)  
 C・・・やや悪い (目標を一部達成できなかった)

基本方針	目的	経営戦略事業(小施策)	担当課	目標	2022年度末の目標	2022年度の事業内容	2022年度達成状況	2022年度実績	2022年度評価	2022年度評価理由	備考
2 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築	(2) 地震対策の推進	① 成瀬クリーンセンターの耐震化	水再生センター	耐震化率81.5%	耐震化率72.4% (現状値:64.7%)	耐震補強工事 ・沈砂池ポンプ棟 (2021~2022債務負担行為) ・汚泥処理棟 (2022~2024債務負担行為)	沈砂池ポンプ棟: 地下部の耐震補強工事が完成し、目標の耐震化率72.4%を達成した。 汚泥処理棟: 2023年1月に耐震補強工事を契約し、予定どおり進捗している。	耐震化率72.4%	B	沈砂池ポンプ棟の耐震補強工事が完了し、耐震化率を目標の72.4%にすることができたため。また、予定通り汚泥処理棟の耐震補強工事を契約し、進捗させることができたため。	
		② 鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の耐震化	水再生センター	耐震化率 鶴見川ICC71.2% 鶴川ポンプ場100%	耐震化率 鶴見川ICC21.9% (現状値21.9%)	耐震設計 ・鶴見川クリーンセンター焼却炉棟	予定通り鶴見川クリーンセンター焼却炉棟の耐震補強設計が完了した。なお、耐震化率は現状値の21.9%である。	耐震化率21.9%	B	予定通り耐震補強設計を完了することができたため。	鶴川ポンプ場(ポンプ棟)は、2029年度耐震補強工事完了予定。  設計完了した焼却炉棟耐震補強設計は2023年度~2024年度の耐震補強工事で使用する。  2022年度は、耐震補強工事ではないため、耐震化率の変動はない。
		③ 汚水管の耐震化	下水道整備課	汚水管の重要な幹線等の耐震化率100% (2021年度末)	耐震化率 100% (目標達成済)	・汚水管の重要な幹線等の耐震化は耐震化率100%で事業完了	・汚水管の重要な幹線等の耐震化は耐震化率100%で事業完了	耐震化率 100% (目標達成済)	B	目標の耐震化率を達成したため。	
		④ 雨水管の耐震化	下水道整備課	雨水管の重要な幹線等の耐震化率100%	耐震診断実施	・緊急輸送路などに布設され、かつ、液状化の可能性が高い雨水管の耐震化のため、雨水幹線の耐震診断実施	・計画した雨水幹線及び枝線の耐震診断は予定通り完了  耐震診断延長 L=4.3 km	累計耐震診断延長 L=5.4 km	B	目標である雨水幹線及び枝線の耐震診断が完了したため。	
		⑤ 避難施設へのマンホールトイレの整備	下水道整備課	整備済み避難施設数 71施設 (2025年度末)	整備済み避難施設数 55施設	・災害時における避難施設のトイレ機能確保のためマンホールトイレ整備工事実施 ①南第四小学校、つくし野小学校 ②三輪小学校、鶴間小学校 ③南成瀬小学校、薬師中学校	・計画したマンホールトイレ整備工事は予定通り完了  ①南第四小学校、つくし野小学校 ②三輪小学校、鶴間小学校 ③南成瀬小学校、薬師中学校 計6施設  整備済み避難施設数 55施設	整備済み避難施設数 55施設	B	目標とした6施設へのマンホールトイレ整備が完了したため。	
		⑥ 下水道事業継続計画(地震編)の運用管理及び訓練の実施	下水道部全課	訓練と見直し実施	訓練実施回数 1回	・下水道部では下水道BCP(地震編)を適切に運用する。 ・下水道BCP(地震編)に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図る。 ・下水道BCP(地震編)を必要に応じて修正・更新作業を行う。	・下水道部では下水道BCP(地震編)を適切に運用した。 ・下水道BCP(地震編)に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図った。 ・訓練実施に伴い下水道BCP(地震編)の見直しについて検証した結果、BCPマニュアルを一部修正した。	訓練実施回数 2回	B	下水道BCP(地震編)に基づく訓練を年3回実施し、目標を達成したため。	

「未来につなぐ下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)

※「経営戦略事業(小施策)」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例

A・・・大変良い (目標を大きく超えて達成できた) D・・・悪い (目標を達成できなかった)  
 B・・・良い (目標を達成した) -・・・該当なし (当初から事業の予定がなかった)  
 C・・・やや悪い (目標を一部達成できなかった)

基本方針	目的	経営戦略事業(小施策)	担当課	目標	2022年度末の目標	2022年度の事業内容	2022年度達成状況	2022年度実績	2022年度評価	2022年度評価理由	備考
3 経営の効率化及び健全化・より良い下水道サービスの導入	(1) 効率的・効果的な維持管理の推進	① 状態監視保全の維持管理	水再生センター	1) 下水処理施設の 詳細調査件数 100件以上	下水処理施設の 詳細調査件数 10件以上	成瀬クリーンセンターで汚泥脱水設備の汚泥脱水機、 鶴見川クリーンセンターで反応タンク設備の送風機本体、 鶴川ポンプ場で汚水ポンプ設備など、合計10件以上の下水処理施設の 詳細調査を実施する。	成瀬クリーンセンターにて汚泥脱水設備の汚泥脱水機など5件、 鶴見川クリーンセンターにて反応タンク設備の送風機本体など2件、 鶴川ポンプ場にて汚水ポンプ設備など3件、 合計10件の下水処理施設の 詳細調査を実施した。	下水処理施設の 詳細調査件数 10件	B	目標の詳細調査件数10件を達成したことにより、施設の健全度が判明し、効率的・効果的な維持管理をするためのデータ収集ができたため。	
			下水道管理課	2) 下水道管の点検・ 調査延長542km	調査延長 54km	「町田市ストックマネジメント計画」の実施方針により点検・調査計画を策定し、その優先順位に基づき、管路施設の異常の有無を把握するために、TVカメラ調査や目視調査などの簡易的な調査を行う。 2022年度は、原町田ブロックの管路施設54kmの調査を行う。	予定通り、TVカメラ調査、目視等の調査、評価及び分析を行い、54kmの管路施設について、劣化状況を把握することができた。 (2023年3月完了報告済)	調査延長 54km	B	予定通り管路施設54kmの調査を行い、目標を達成したため。	
		下水道管理課	② 腐食環境下にある 下水道管の点検	点検箇所数294箇所	点検箇所 28箇所	下水道管の腐食が予測される箇所について、法令を遵守し定期的な点検を実施する。 2022年度は、河川部の伏せ越し及び、金井処理分区、三輪処理分区を対象に28箇所の点検を行う。	予定通り、現場での28箇所の点検及び点検結果のまとめを行った。点検結果としては腐食による管渠の不具合はなかった。 (2023年3月完了報告済)	点検箇所 28箇所	B	予定通り下水道管渠28箇所の点検及び点検結果のまとめを行い、目標を達成したため。	
	(2) 計画的な改築更新	③ 汚水管への浸入水対策	下水道部全課	調査地域19地域	調査地域 2地域	雨天時に浸入水の多い地区において、原因究明のため取付管TVカメラ調査、送煙調査、目視調査などによる詳細調査を行い、確認された不良箇所について改善を行っている。 2022年度は、原町田一丁目地内の1地域において、2021年度調査により絞り込まれた浸入水が多い地域の詳細調査を行い、原因究明と改善計画の策定を行う。 高ヶ坂処理分区の雨天時浸入水が多い地点で詳細調査を行い、原因究明と改善計画の策定を行う。	・調査結果については、露天排水や雨どいからの雨水が汚水桝へ接続されたものが発見されたことを踏まえ、改善計画を策定した。  ・調査結果をもとにストックマネジメント計画と整合性を図った修繕・改築等の対策数量を算出し、対策実施想定年度を示した。  以上、2箇所の調査地域について調査を完了した。	調査地域 2箇所	B	予定通り、汚水管への浸入水対策について2箇所の調査を完了し、目標を達成したため。	
			水再生センター	① 下水処理場・ポンプ場の 改築更新	成瀬クリーンセンター 工事完了件数：1件 (繰越事業)  鶴見川クリーンセンター 工事完了件数：3件	成瀬クリーンセンター ・水処理設備工事(ゲート設備) 鶴見川クリーンセンター ・ポンプ設備工事(主ポンプ) ・汚泥処理設備工事(脱水機) ・電気設備工事(主ポンプ、汚泥脱水設備)	以下の工事が完了した。 成瀬クリーンセンター ・水処理設備工事(ゲート設備)  鶴見川クリーンセンターの以下の工事3件については、昨今の半導体不足により一部部品の納期が大幅に遅延したため、工事完了が2023年度に繰越となった。 ・ポンプ設備工事(主ポンプ) ・汚泥処理設備工事(脱水機) ・電気設備工事(主ポンプ、汚泥脱水設備)	成瀬クリーンセンター 工事完了件数：1件 (繰越事業)  鶴見川クリーンセンター 工事完了件数：0件	C	成瀬クリーンセンターの1件については予定通り工事を完了することができたが、鶴見川クリーンセンターの3件は、世界的な半導体不足による影響により工事が遅延し、予定通り完了することができなかったため。	鶴見川クリーンセンターの工事3件については、2023年度に繰越し、2023年度中に完了予定である。
		下水道整備課	② 管渠の改築更新	「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新の実施	・「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新工事実施に向けた詳細設計実施	・計画した下水道管路の詳細設計は予定通り完了  詳細設計実施 汚水 L=2.5km 雨水 L=0.1km	詳細設計実施 汚水 L=2.5km 雨水 L=0.1km	B	目標とした下水道管路の詳細設計汚水L=2.5kmに加え、雨水L=0.1kmも完了したため。		